

# HARLEM

## SPIT'EM OUT!

"it's absolutely raw"

03  
Monthly News Paper  
March, 2007  
Volume 90 Issue 119

### feature interview

# DABO

DABOのHIP HOPへの情熱がひしひしと伝わるインタビューとなった。  
HIP HOPラヴァー達よ、必読!

■今回のアルバム『BABY MARIO WORLD』は参加アーティストの数の多さと幅広さが話題にもなっていますが、交友関係の幅の広さはどのように築いていったのでしょうか?

B-BOYの人は意地っ張りが多いから、他人とか身内以外をあんまり認めたくない人が多いと思うんだけど、オレはどっちゃかっていうと認める方が好きで。無理矢理認めてるわけじゃないけどオープンだから、全然知らない人でも「すごいね」って思ったら認めるし、自分ができないことをやってる人は皆すごいなって思っちゃうタイプなんだよね。だからすごい自然とか。けっこう皆さんからオレの名前を知ってもらえるから話しかけられるし、逆にこっちから話しかけたりもするし。

今回のアルバムでも、実際に今まで会ったこともないけど一緒にやりたいって人もいたから、直に電話して「はじめまして、DABOですけど、1曲やってくれる?」って言った人もいて(笑)。そこはあんまり無理のない作業なんだよね。今だからたくさん人と絡まなきゃいけないって思わないこともないけど、無理に思ったわけでもなくて企画として面白い意味があると思ったことだから。ざっと見た感じ、オレみたいにそっちもこっちも知り合いがいるって人は、どうやらあんまりいないみたいだ。

例えば、HARLEMには人がたくさん居るんだけど、HARLEMのコネクションの中で終わってしまう人は終わってしまうと思うんだよね。でも、オレは夜遊び人だから(笑)。ぶっちゃけお世辞じゃなくてHARLEMが一番落ち着くんだけど、他のクラブも行くし、REGGAEの現場を見に横浜に行ったりもするし。たぶん、オレの交流の幅っていうのはそこに尽きるんじゃないかなって思うね。オレが遊んでるからだよ。勝手に知り合うというか、「こいつら興味あるんだよね」って人に自然と知り合うから縁ですかね。それは、意識してやれることじゃないと思うし、意識したらだいぶ辛いんじゃないかな。

皆さんがオレをラッパーというアーティストとして認めてくれたうえでコミュニケーションで、そこからコミュニケーションが始まるから、変な話、ちょっとガラの悪い不良のヤツとかでも不良の面で見せてくれている、オレが荒っぽいことを言ってもそういう人じゃないって音楽を聴いてわかってもらえるんだと思うしね。そこがオレの自信でもあると思う。あんな怖い人、こんな怖い人がいるけど、黒い話はオレにしてこないし。オレは風の噂で全部知ってるけど(笑) オレには直接してこないんだよね。「DABOにはそういうので関わりたいんじゃない」って思ってくれてるんじゃないかな。だからオレは得な面はいっぱいあるし、人脈がオレの武器だと思うんだよね。そこでオレのやってきたことが間違いないんだなって確認できるし、そう思ってた欲しくてやってるんだってのも確認できるから。

■“アーティストDABO”としての使命感はありますか?  
こっさり使命感は持ってるんだけど(笑)。今回のアルバムを作ったことにより使命感を持ってるのがバレちゃったな、という感じはあるよね。オレはHARLEMでレギュラーを持ってるわけじゃないけど、レギュラー的にいるじゃない(笑)。ぶっちゃけ一番来てるんじゃないかなとも思うし、ライブもやるし、友達でDJをやっているでんだかんだ居るんだけど、オレはたまたま東京で暮らしてるからCAVEとかの時代からこの辺の流れと合流して、ここに居るのが当たり前だしモロに日常じゃない。でも「HARLEMでいつかはレギュラーをやりたい」って人は全国にいっぱい居ると思うのね。「HARLEMをHIP HOPの殿堂にしようぜ」って始めた立ち上げの時から見てるからわかるんだけど、そうやって始めて実際にそうなったのと、オレが「ラッパーとしてこうなっていく」っていうのとは、あんまり変わらないんだよね。「オレはHIP HOPの権化になってやる」って思ってた始めたわけだし。それはHAZIMEだって同じだと思ふ。そうやって始めて大きくなって、評判になって、「やっぱHARLEMはナンバーワンでしょ」って言う人たちがいっぱいいるし「DABOナンバーワンでしょ」とか「HAZIME

ナンバーワンでしょ」とかいうのがあって。  
HARLEMはHARLEMで使命感があるのと、考え方的には何ら変わらないと思うんだよね。「こうなる」と思って努力して、「どうやらなってきた」って言うてくれる人が増えて、そうなる責任もあるしもちろん使命感もあるよね。それで使命感がなきゃおかしいと思うし。HARLEMで“NO DOUBT”のメインタイムで1時間日本語ラップをかけるっていうのは、基本は無いわけじゃない。中には「なんで日本語ラップがかかれないんだろう」って思う人とか、「HARLEMのHIP HOPが全てだと思われたら困る」とか言い出すヤツが出てくるわけですよ。「そんなこと言っていないじゃん」ってことなんだけど、オレも言われるし、たぶんHAZIMEとかも言われてると思うし。より多くの人に伝えるってのが使命感だと思うから、自己満を超えた視点で見なきゃいけないし、例えばHAZIMEが「今日は日本語ラップかけたいから、日本語ラップでいきます」とはいかないじゃない。「HARLEMの土曜日の“NO DOUBT”はそうじゃないでしょ。」って、そういうのが使命感だと思うんだよね。遊びに来てるお客さんのうち、7割8割の人は洋楽を求めて来るわけで、残りの2割、日本語ラップがかかって「キヤ〜」って言う人が居るってのを、最近また再認識してると思うけど。そういうところが使命感なんだから、HARLEMに来て「洋楽しか聴かない」っていうのはHAZIMEも困ると思うんだよね。オレのDJでもあるし、NITROも身内だし。ここ何年か、HAZIMEも周りに言われながらも頑なに「HARLEMは違うんだよね。そういうところじゃないから」って言ってやってきたわけだけど、ここにきてまた少し変わってきたと思うから、そういうのも全部同じような気がするね。

HARLEMもオレもHAZIMEも。日本語ラップでも、ここ何年かはマニアックな「日本語ラップマニア」みたいな層を見ないようにして、USのHIP HOPがカッコイイのは何なのかを日本で開眼することにした焦点を合わせてなかったんだよね。それでいてオレはバイリンガルじゃないけどモロ日本語ラップだから、そこが面白いんじゃないかって思ってたけど、逆にUSのHIP HOPは向こうでもビッグで、日本でも明石家さんがBeyonceを聴いてるってテレビで言うくらいの時代だから、みんながアメリカを向いてる今、「アメリカの文化としてのHIP HOPを日本に広める役目はオレはやらなくともいいんじゃないか」って思ってた。そんなのやるって若い子達ばかりじゃないし、しかもカッコよかったりするから、「この枠はもう大丈夫じゃん」「この目線のHIP HOPは、もう一杯あるわ」って思ってた、その役目はオレは終わったなって感じるのと同時に、解放されたところもあって。オレがずっとやってきたようなことを、今風にやってる若い子がたくさんいて、しかもカッコイイんだってたら希望もあるじゃんって思ってた。「じゃあオレは?」となると、次のことをしないとイケないと思うし、そういうのを使命感って言うんだろね。

だからたぶん、HARLEMも何年もやってきて、「ずっと今までのスタイルでやっていきますよ」とはならないと思うし、基本的な姿勢はありつつも時代時代しているようなことを提示していかないとイケない、一番影響力もありデカイクラブだから、一歩進んでいかないとイケないと思うんだよね。まあ、クラブにとっては「いつも変わらないクオリティーのものを出しますよ」「1年後も10年後も同じクオリティーのものを出しますよ」っていうのもいいのかもしれないけど、オレはアーティストだからね。

■今後の予定は?  
これから作っていくもの予定は決まってるから、やることをやるだけだし、オレも落ち着いてるんだけどね。これからの目標としては、トビックだと思ふんだよね。かっこいいビートとかかっこいいラップって、もう当たり前前の当たり前で「そんなの全然できるよ」ってことだから、オレはこれからはもっとリアルなことを歌っていかなくちゃいけないって、時事ネタとか「これって世の中おかしくない?」ってことを歌っていかなくちゃいけないって。若い子が「HIP HOP聴いて楽しい」って言って夢中になったり、ビート作るのに夢中になったり、それぞれの



**DABO Presents**  
**"B.M.W."**  
**-BABY MARIO WORLD-**  
**Vol.1**  
**'07.02.21 OUT!**  
TOCT-26189 ¥3,000 (TAX IN)

**"カルパル2007"**  
DABO PRESENTS  
B.M.W. -BABY MARIO WORLD- VOL.1  
RELEASE SPECIAL  
**'07.3.24 SAT @ CLUB CITTA'**  
STARTING: DABO, B.O, BES, COMA-CHI, DELI,  
DJ HAZIME, DJ KEN-BO, DJ WATARAI,  
EQUAL, GOOD, HUNGER, JAY'ED, KAYZABO,  
KGE, KREVA, MACKA-CHIN, MISTA O.K.I, Mr.02,  
MUMMY, DJ PAPA B, PUSHIM, SHONN,  
TARO SOUL, TWIGY, ZEEBRA, 平太, 杉本  
OPEN 18:00 / START 19:00  
info: www.clubcitta.co.jp  
TEL: 044-246-8888

**"カルパル2007 AFTER PARTY"**  
**'07.3.24 SAT**  
**@ HARLEM "NO DOUBT"**  
DJ: TAKI, HAZIME, MOTODOM MC: CT  
SPECIAL GUEST: DABO & more  
OPEN 22:00

方法でハマるけど、それは娯楽とか現実逃避に留まるところもあると思うんだよね。  
例えば、K DUB SHINEが社会派とか言われてるけど、「あんなの当たり前なんだよね」って思うし、皆がK DUBを「あいつは社会派だから」って言うけど、逆に「そんなのHIP HOPで普通なんだけど」って思ったりもして。20代まではバイトしたり、普通に働いたり、人によってはブーだったりしてクラブに遊びに来るんだろけど、オレは確定申告して税金も払ってるし、小さいけど一応社長だし、もうちょっと違う問題を歌っていいかと思うしね。だから、「歌えることってこんなにいっぱいあるんだよ」っていうのを示していきたいし、子供には解りにくいことを言ってあげるのが大人の役目だとも思うしね。政治だ、警察だ、時によっては宗教だって歌えることはいっぱいあるから、できることはいっぱいあるって思うよ。みんな「ドープ」とか「ワック」とか「ピッチ」とか「ファック」とか、「パウンス」だ「クラブでカウンターでシャンパン」だって言うてる方が楽しいんだよね、はつきり言って楽し。オレも散々言ってきたけど、そんな曲は寝ても書けるというか。でも、経験がある人じゃないと書けないことっていっぱいあると思うし、そういうことをオレはしていきたい。  
だから今はHIP HOPらしいHIP HOPっていうのを今さらやるうとはしてない。音の面ではHIP HOPだと思ふけど、「こういうのを歌うのがHIP HOPだよ」っていうのをもっと広げたいから。欧米のラッパーたちは、もっともっというんなこと歌ってるからさ。だから、アメリカを見据えた日本のHIP HOPではなくて、日本のHIP HOPはまだこれだからと思ふしね。オレはHIP HOPの代表にならなかったから、「HIP HOPってのはこういうものだよ」「B-BOYってこういうものだよ」っていうのを全部自分から進んで型にハマっていったし、それにみんなが「わー!」って言うてくれたから「おー、なかなか気分いいよ」なんて言ってたんだけど、アルバムとか出していくうちに「オレそうじゃないんだよ」ってことも自分で解ってくるし、「オレ、そんなふうに見られてた?」ってのも無くはないんだよね。HARLEMもそうだけど、注目される人は誤解されるからさ。だからその誤解を解く作業もオレ自身のために必要だし、考え方もアメリカに染まる必要はないと思う。「日本でHIP HOPやるポイントとして、どこが一番いいんだろう」「どのポイントが一番の正解なのか」ってのを探して始めて、それに辿り着くために今回のアルバムをやった気がするよ。

■3月24日にCLUB CITTA'で開催するリリースパーティーは?  
今回のアルバムに参加してもらった人達はほとんど出ます。だから、ほとんど大丈夫でしょう(笑)。「カル

パル」っていう名義でCITTA'でイベントやるのは3回目、今まではずっとオールナイトだったんだけど、今回はゲストの多いアルバムを作ったから若い子も来れないとズレないと思ってコンサート時間になりました。終電で帰る人は帰ってもらって、まだ遊び足りない人はアフターパーティーってことでHARLEMに集ってもらえればと。土曜だし「NO DOUBT」なわけだから楽しいと思うんで、是非是非来て欲しいね。今回のCITTA'のイベントは、自分一人の作業じゃなくて、オレを入れて30人近い人が参加するわけだから、大筋は決めるけど全部が全部オレの思うように進むとも思っていないで、ハングルの何かは絶対起こると思うからオレもお客さんも出演者達もみんな一緒に楽しみたいし、一緒に感動したいと思って、だからお客さんが居ないと始まりません。お客さんには損したと思われたくないから、その分ガッチリやって「得したね」って言うてもらえるように気合いを入れてやるんで、是非来て欲しいよね。

■読者にメッセージを。  
「お客様は神様です」っていうのは、冗談みたいだけどホントだと思ってるんだよね。オレは「食えなくていいからHIP HOPやるよ」っていうタイプじゃなくて、食うためにHIP HOPしかなかったから。もちろん好きだし得意だから全然苦じゃないけど。オレは常に人を巻き込んで大きな波を作っていくって思ってるし、今は、いろんなところにいるんなタイプのスターがいて、KREVAみたいにオリコン1位を獲得するヤツもいれば、オレみたいな、ZEEBRAも、RHYMESTERも、アンダーグラウンドにもスターがいるから、「日本語ラップってこういうものだよ」っていうステレオタイプが人によっていろいろあると思うんだよね。でも、5個も6個もステレオタイプがあったら、それはステレオタイプじゃないわけだ人それぞれのいろんな芸風になってるんだと思う。  
でも、所詮ラップの好きな人の集まりだから、いろんなふうにならぶってクラブを巻き込みながらももっともっとデカイものを作りたいと思ってるんだよね。そういうお祭りみたいなものがあるんだってたら、オレは一枚噛んでたいと思ってる、そこに皆も参加してもらいたいと思ってる。だから、これを読んでる一人一人がオレたちの希望なんだよね。ホントに、読んでくれる人たちが食いついてくれないと話になんないし、そこに尽きるから。皆がつまらないって思うことはライブではしたくないし、皆のことを裏切るつもりも全くないから、「オレは信じていいぞ!」と言いたいね。!!